

名古屋市博物館

尾張の歴史・文化的地域性と伊勢湾との関わりに関する考古学・民俗学的研究

調査研究期間：平成29年6月1日（木）～平成30年3月31日（土）



【調査研究の内容・目的】

- 名古屋を中心とする尾張・知多の歴史・文化の基層的地域性には伊勢湾との深い関わりがあるが、現在ではほとんど認識されていない。尾張・知多の海にまつわる文化史を学問的かつ観光的に楽しんで学べる特別展を開催し、海の学びとするために調査・研究する。
- 尾張・知多地域の海に関する考古資料・文献資料・民俗資料を調査研究し、古代海民集団の実像、基層的な海の信仰・神話、近世～近代の漁撈や海底・沿岸地形などの文化史を復元することを目指す。また、現代の伊勢湾各所の景観を映像的に記録し、後世に向けたその景観の記録保存を図る。
- 本調査研究では当地方に根ざした海と関わる文化財や景観を抽出し、その由来・背景や当地方の文化形成における意義を見出す。その成果によって、海に育まれた当地域の文化史的地域性を広く学んでもらうことができる。

1. 調査研究内容の詳細

【調査研究代表者】

■藤井康隆（名古屋市博物館 主任学芸員）

【調査研究分担者】

■長谷川洋一（名古屋市博物館 学芸員）

■杉浦秀昭（名古屋市博物館 調査研究員）

■酒井康平（名古屋市博物館 学芸員）

【実施計画】

■1カ年計画1年目

【主な調査研究対象など】

■慶應義塾図書館（『漁具絵図下調 知多郡役所』閲覧調査）

■日間賀島・日間賀島資料館（漁具調査・北地古墳群など）

■志摩市教育委員会・志摩市歴史民俗資料館（志島古墳群関係資料）

1. 財団法人徳川黎明会 徳川林政史研究所（東京都豊島区）平成29年6月28日・8月23日
「熱田羽城海中漁場案内図」（文政三（1820）年）、「愛知郡天白川下流海辺図（柴田新田絵図）」（文化十一（1814）年以降）、「粕江川築出絵図」（明治七（1874）年）を閲覧調査して、各資料の文字記載を解読しながら、現代の地理・地形と比較検討した。それにより名古屋沿岸部における漁場と魚種、近世の埋め立て・築堤による景観変化について大きな知見を得た。
この成果によって、特徴的な地域をクローズアップした形で、前近代の名古屋沿岸部の海と関わる環境・景観とくらしをより具体的に学ぶ材料とすることができる。



《慶應義塾図書館》入口



《調査のようす》

2. 慶應義塾図書館（東京都港区）平成29年6月29日・8月23日
「漁具絵図下調 知多郡役所」（明治十二（1879）年）を閲覧調査した。同資料には知多半島各地において江戸時代～明治初期におこなわれた漁法や漁具が村単位で図解されている。その漁法・漁具や漁獲物など漁撈の実態を現在の同地域の状況と比較検討するとともに、特徴的な漁法・漁具を抽出して、現在にまでつながる同地域の漁撈文化の特色を見出した。
明解で親しみのもてる絵柄で漁法・漁具が村単位に分けて描かれており、寸法や方言での呼称なども併記されているため、本調査成果の活用によって知多半島沿岸の漁撈文化を地域に根ざして身近に感じながら学ぶことができる。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



《宮山古墳出土品調査のようす》（愛洲の館）



《宮山古墳出土品の撮影状況》（愛洲の館）

3. 南伊勢町 愛洲の館（三重県度会郡南伊勢町） 平成 29 年 7 月 19 日・11 月 28 日
 南伊勢町 宮山古墳の出土品を実見調査した。高い階層の首長層の副葬品である双龍環頭大刀の詳細な特徴や、釣針と考えられる鉄製品を確認した。また、出土した須恵器の器形・製作技法・焼質・胎土などの観察から、伊勢湾をはさんだ対岸奥部の尾張・伊勢北部・近畿など、広範囲の窯業製品が同古墳で用いられたことが明らかとなった。

宮山古墳の出土資料は、古墳時代に尾張・伊勢北部と志摩の間に海を介した交流が盛んであったことを示し、人々と物資をつなぐ伊勢湾という海のネットワークを知ることができる。



《宮山古墳の現地からの眺望》

宮山古墳は丘陵突端部に立地し、半島先端部の小さな内湾入江を望む。



《日和山古墳から望む五ヶ所湾湾口部》

宮山古墳にごく近い丘陵の最高所に立地し、石室開口方向は五ヶ所湾湾口の外海を望む。

4. 宮山古墳・日和山古墳（三重県度会郡南伊勢町） 平成 29 年 7 月 19 日

志摩南部の海民集団を代表する首長墓と考えられる宮山古墳・日和山古墳の現地を踏査し、古墳の規模・立地や眺望を把握した。宮山古墳は優れた副葬品のわりに小規模で立地も内向きであるが、それに対して近在する日和山古墳は比較的規模が大きく外界に臨む。当地の海民集団における首長の階層性の差異を知ることができた。

現地踏査の成果を出土資料の調査成果と合わせて宮山古墳の首長としての性格をより詳細に考察・紹介することで、古墳時代における海民集団の具体像について学ぶことができる。



《志摩市歴史民俗資料館での調査状況》



《志摩市歴史民俗資料館での撮影状況》

5. 志摩市歴史民俗資料館（三重県志摩市） 平成29年7月20日・11月29日

主に志摩市域の古墳出土品について調査した。志摩の海と関わる代表的な古墳群として志島古墳群があり、そのうち発掘調査が実施されたおじょか古墳・塚穴古墳の出土品について実見調査した。いずれの古墳も海に臨んで立地しながら、おじょか古墳の出土品には海上交流や海の生業を具体的に想定させる要素がほぼ皆無であるが、他方で塚穴古墳の出土品には伊勢湾対岸の尾張猿投窯や三河方面との関係を想起させる須恵器・土師器が存在するという差異を見出すことができた。

こうした知見を活用することで、古墳時代の伊勢湾沿岸部の海を介した交流を示すとともに、沿岸部に暮らす人間集団の性質に多様性があったことを知ることができる。



《塚穴古墳出土遺物の撮影状況》



《塚穴古墳の横穴式石室内部》

6. 志島古墳群（三重県志摩市） 平成29年7月20日・11月29日

志島古墳群の現地踏査をおこなった。塚穴古墳と上村古墳の立地・規模・横穴式石室の構造的特徴について実地に調査することで、出土品の様相の所見と合わせて、この古墳群の造営集団の活動圏が伊勢湾対岸の知多半島ないし日間賀島・篠島・佐久島方面と関わる広い範囲に及んでいた可能性を見出すことができた。

この可能性を追究し公表することで、沿岸部に暮らす海民集団は陸地世界の常識とは大きく異なり統治権の境界を越えた地域圏を体現しており、海は往来困難な障害ではなくむしろ広域的活動を可能にする舞台であったということを学ぶことができる。



《三重県埋蔵文化財センターでの調査状況》



《三重県埋蔵文化財センターでの撮影状況》

7. 三重県埋蔵文化財センター（三重県多気郡明和町） 平成 29 年 8 月 16 日・12 月 12 日
鳥羽市 おばたけ遺跡の出土品を実見調査した。同遺跡は、現在の答志島の和具港に位置する海浜集落であり、比較的大規模に漁撈に従事した集落であることがわかった。また、同遺跡で使用された土器には、伊勢湾東岸奥部の尾張の須恵器が多数含まれるほか、三河地方や佐久島と共通する特殊な形状の土師器も存在した。つまり古墳時代から奈良時代にかけて、答志島の人々が漁撈に従事する一方で、対岸の尾張・三河地方との間に海を介して交流・物流圏や生活地域圏を形成していたことがわかる。

陸地と同様に海上世界にも、生業・交易や習慣を共有する人々が活動する「地域」が形成されていたことが窺え、海には人間集団や地域を作る役割もあったことを学ぶことができる。



《三重県総合博物館での調査状況》



《三重県総合博物館での撮影作業状況》

8. 三重県総合博物館（三重県津市） 平成 29 年 8 月 17 日・12 月 13 日
三重県水産図説、三重県水産図解（全五冊）を実見調査した。両書には明治初期における各種の漁具の使用地、地方名、部分名称、寸法、構造、および漁法・魚のようす、水産物とその加工方法が明解な絵図によって詳細に記録され、伊勢湾西岸の三重県域における近世から続く漁撈のあり方を知ることができる。なかでも伊勢湾奥部に位置する桑名などの地域でおこなわれた採貝漁やウナギ漁は名古屋港周辺の漁撈と、鳥羽周辺のタコ漁やコウナゴ漁は知多半島南部や日間賀島の漁撈と共通し、尾張・知多と多くの共通点があることがわかった。

調査結果を通じて、伊勢湾各地の海の環境に応じた漁撈・漁獲物の地域的特徴を視覚的にわかりやすく知り、古くから受け継がれる海がもたらした地域の独自性を学ぶことができる。



《青峯山正福寺の海上安全祈願の護摩札》



《青峯山正福寺での海難絵馬の撮影状況》

9. 青峯山正福寺（三重県鳥羽市） 平成29年9月20日・11月28日

古くから海上安全の信仰を集める青峯山正福寺に奉納された護摩札や船絵馬・海難絵馬、境内に寄進された常夜燈を実見調査するとともに、写真・動画撮影をおこなった。その信仰圏は伊勢湾内のみならず関西や関東にまで広域にわたる漁撈従事者や廻船問屋・海運業者で、航海安全の祈願、海難から逃れたことに対する感謝、海での祭礼・参詣など、海の信仰の内容、地理的範囲や関わった人々などの幅広さを確認できた。

青峯山の信仰には人々が抱いた海の恐ろしさと、それに向き合う人々の思いが見出せる。広範囲の人々が海上交通の加護を青峯山に求めたことから、地理的にも東西日本の結節点である尾張・知多の漁撈民や海運業者が海上活動において大きな役割を占めたという、当地域の海の重要性を学ぶことができる。



《津市沖から北方向の伊勢湾奥部を望む》
視界不良だが四日市周辺が見える。



《乗船した船と背後の知多半島》
中部国際空港にて。

10. 津新港⇄中部国際空港の海上（三重県津市・愛知県常滑市） 平成29年11月15日

船に乗り海上からの視界で、伊勢湾沿岸地域の景観やランドマークをどのように視認することができるかを調査し、その景観を動画・写真で映像記録化することを試みた。

天候良好な日を選んで調査を実施したが、海に出てみると霧がかかり、また海面の波がかなり高く、遠景に関しては期待した景観は残念ながらほとんど視認することができなかった。ただし近景では海上からの地理的位置関係などをある程度把握し得た。また、好天であっても大気や気温などの諸条件により海上と陸地とでは視界が大きく異なることを実感できた。

その調査所見と映像記録は、海上の気象や視界は予測が難しく、しかもそれが海に生きる人々の生活に大きな影響を及ぼすことを学ぶ展示・解説の材料として活用することができる。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



《京都府立丹後郷土資料館》



《京都府立丹後郷土資料館での調査状況》

11. 京都府立丹後郷土資料館（京都府宮津市） 平成29年12月6日

古代氏族「尾張氏」と漁撈・海運を職掌とする「海部氏」との関わりを示す国宝『海部氏系図』本系図および勘注系図の複製品、および丹後地域の考古資料を調査し、伝承や考古資料にみる尾張と丹後・若狭の海民伝承の関係を探った。

国宝『海部氏系図』を通して、「尾張氏」の伝承を検討し、尾張を統治する勢力の中核に海と関わる集団を出自とする人々がいたことを再認識し、海がもたらす生業と広域交流が形成した歴史を地域のアイデンティティとして学ぶことができる。



《御食国若狭おばま食文化館》



《御食国若狭おばま食文化館の展示状況（一部）》

12. 御食国若狭おばま食文化館（福井県小浜市） 平成29年12月7日

尾張・知多と同様に古くから魚介・塩などの海産物などを朝廷に献納する国として重要な役割を果たしてきた若狭について、「食」の面から歴史・文化の形成を紹介する同館の展示を見学し、海と食との歴史的関係や展示手法について調査した。古代以来の海とその特産物が、「食」とそれを取りまく祭礼や生業、地域社会などの伝統文化を形成してきたようすを知ることができた。



《佐久島・山の神塚古墳の横穴式石室内部》



《山の神古墳出土土器の撮影状況》

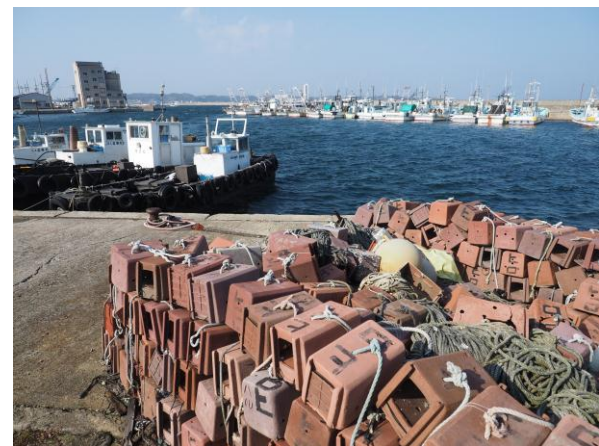
13. 佐久島（愛知県西尾市） 平成 30 年 1 月 12 日

佐久島に所在する山の神塚古墳の出土品および現地の調査・撮影をおこなった。山の神塚古墳は横穴式石室の形状・構造や石材には、知多半島や日間賀島の北地古墳群、志摩地方の古墳と共通点があり、また出土土器からも伊勢南部・志摩地方との集団関係を推定できることがわかった。

山の神塚古墳の横穴式石室および出土資料は、海を媒介とした広域交流が尾張・知多の歴史に大きな影響を与え、伊勢湾の両岸および島嶼部をまたいで地域間交流や人間集団の形成などの活動がおこなわれてきたことを知る重要な資料である。



《日間賀島資料館所蔵漁具の撮影状況》
借用展示予定資料の撮影を日間賀島の久瀨漁港にて実施。



《日間賀島・久瀨港の景観》
「タコの島」を看板とする日間賀島らしく、漁港の随所に蛸壺が積み上げられている。背景は知多半島先端の師崎・片名。

14. 日間賀島（愛知県南知多町） 平成 30 年 1 月 23 日

日間賀島では古墳群を形成するような集団が活動し、漁撈にも従事していたことが知られている。古墳時代以来サメ漁が昭和前半期までおこなわれたほか、現在の島の名産であるタコの漁が盛行に関しても少なくとも近世まで遡るなど、形を変えつつも古来の特産漁獲物の漁撈が現在にまで継承されていることがわかった。また、それらの漁を代表する日間賀島資料館所蔵の漁撈具資料を写真撮影するにあたり、特別な許可を得て漁港をスタジオ代わりにして野外撮影をおこなったことで、写真によって現地の風土と臨場感を伝えることができる。



《篠島・神明社》



《篠島の遙拝場から望む伊良湖岬・神島・答志島》

15. 篠島（愛知県南知多町） 平成 30 年 1 月 24 日

篠島は日間賀島・佐久島と並び古代以来、漁撈と海上交流が確認できる知多半島先端沖の島である。現在篠島に伝わる祭礼・行事および史跡、風土環境を現地踏査しながら、同島周囲の海の景観の撮影記録をおこなった。伊勢神宮内宮の遷宮に合わせてその古材の下賜を受け遷宮する伝統を現在も続ける神明社、また同島から 900 年間以上にわたり神饌として伊勢内宮に献納される「御弊鯛」などを確認した。島南端の岬にある伊勢神宮の遙拝場からの景観によっても、篠島が伊勢神宮を取り巻く地域圏に属してきたことを知ることができた。



《神島・八代神社での調査・撮影状況》



《神島・八代神社》

16. 神島（三重県鳥羽市） 平成 30 年 2 月 8 日

神島では、島全体の地形・地理環境、集落域や生業形態を確認しつつ、古代より特殊な奉納品が多く献納され祀られてきた八代神社の实地踏査をおこなった。神島には集落や生産をおこなう生活域となりうる平地はほぼ皆無で島自体が山地であるため、現在でも山麓のごく一部の谷や尾根上を生活域としている。また伊勢湾湾口部に位置する神島からは伊勢湾内のほぼ全域が視界に入り、かつ渥美半島の伊良湖岬を眼前に望む距離感にある。一方で外海の太平洋にも面して海路上最も困難な位置でもある。これらの実態から、この神島は本来、海上交通とそれにとりまなう海上守護を背景としてきたことがわかり、海上世界の古い信仰形態や海上交通の活発さ、人々の海に対する畏敬の念を学ぶことができる。



《答志島・おばたけ遺跡が展開する和具漁港》



《答志島・岩屋山古墳での調査状況》

17. 答志島（三重県鳥羽市） 平成30年2月9日

志摩半島北部の鳥羽湾に位置する答志島において、漁港・集落の位置と景観、古墳や遺跡の現地踏査をおこない、立地環境や生活・交流圏の把握を試みた。現在でも漁港として漁撈が盛んで集落の発達した同島の和具は、古代の集落域である「おばたけ遺跡」とほぼ完全に範囲が重なっており、かつその背後の丘陵上には多数の古墳が集落と港を望んで立地することがわかった。おばたけ遺跡は水産加工をともないつつ官衙的性格を持つ拠点集落であり、背後に位置する岩屋山古墳、蟹穴古墳などは、その集落の居住集団を統率する首長の古墳であることが明らかとなった。これらを通して、古代以来の沿岸民集団の生活様相や性格、交流圏について学ぶことができる。



《伊良湖水道から望む知多半島の師崎周辺》



《海上からの景観調査・撮影状況》

18. 伊良湖水道の海上（三重県鳥羽市・愛知県田原市） 平成30年2月22日

伊勢湾の海上景観の調査および記録保存を目的として、伊良湖水道を渡るフェリー上から景観および地理的調査、景観の映像撮影をおこなった。これにより、地図上では把握できない海上における視界や距離感、ランドマークなどを把握することができた。また、映像撮影に関しては天候の問題により伊勢湾最奥部まで明瞭に視認しうる視界は得られなかったものの、湾口部から湾中央部周辺の島嶼部・知多半島までの景観を記録に収めることができた。

これらの成果を活用して、海上交易や漁撈に携わる人々の生活圏や地理的認識などを学ぶとともに、映像・写真を通して海の風景を具体的かつ身近に感じることができる。



《浦安市郷土博物館の外観》



《漁村の町並み復元の屋外展示》

19. 浦安市郷土博物館（千葉県浦安市） 平成 30 年 3 月 8 日

元来、東京湾岸の有力な漁村として繁栄した浦安は、湾奥部の河口に位置する砂地の遠浅海岸という環境、そこで収獲される魚介類の種類、漁法などが、伊勢湾最奥部の名古屋周辺の漁撈と類似性が強い。その漁撈研究および展示において高い実績を蓄積する浦安市郷土資料館の見学調査をおこない、浦安の漁撈に関する詳細や、展示手法などを知ることができた。

この成果を踏まえることで、名古屋市博物館において今後、より効果的な展示や充実した調査研究を展開することができ、利用者が当地域を育ててきた海の漁撈について親しみと誇りを感じる場となる。



《沼津市歴史民俗資料館》



《国重要文化財の漁具の企画展開催中》

20. 沼津市歴史民俗資料館（静岡県沼津市） 平成 30 年 3 月 9 日

伊勢湾岸の漁撈や海上信仰と比較をするため、歴史的に豊かな漁撈文化が発達した地域であり、国重要文化財の漁撈具一括資料でも知られる沼津市歴史民俗資料館を見学調査し、漁撈習俗の具体的様相を把握した。

この調査結果から、伊勢湾岸の漁撈の特徴や詳細不明な点を明らかにすることができるのと同時に、名古屋市博物館において今後、より効果的な展示や充実した調査研究を展開することができ、利用者が当地域を育ててきた海の漁撈について親しみと誇りを感じる場となる。



《住吉大社》



《住吉大社の尾州内海廻船奉獻燈》

21. 住吉大社（大阪府大阪市） 平成30年3月16日

尾張知多の尾州内海廻船は近世に関西・関東を股にかけて活躍したとされる海運集団であるが、実際に関西とどのような関係を持ち影響を及ぼしていたか知ることを目的に、全国の海運・水産関係集団から崇敬を集めた大阪・住吉大社の現地踏査をおこなった。

住吉大社には近世から現代にかけて全国から奉獻されたおびただしい数の石造常夜燈が建立されており、それらの中には内海廻船が奉獻したものも含まれる。住吉大社の石造常夜燈から奉獻した地方、集団、規模などを把握することで、尾州内海廻船の位置づけを把握した。

この成果によって、全国の主要航路や海運ネットワークを知ることができ、尾張知多の海ないし伊勢湾がもつ広域的な交流の媒介としての役割について、理解を深めることができる。

2. 本調査研究成果を基に計画・実施可能な 「海の学び」に繋がる博物館活動案

■博物館活動の形態：尾張・知多半島および知多島嶼部の海に関わる歴史文化をテーマとした特別展

■実施時期：平成30年7月～9月

■実施場所：名古屋市博物館 特別展示室・部門展示室

【実施内容】

■都市化と埋め立てが著しく進んで海との関わりの記憶がきわめて希薄化した現在の名古屋を中心とする尾張・知多地方において、現在では失われた当地方の海の地域性を復元し、多くの人々に再認識してもらう。

■古代氏族「尾張氏」の海民伝承、漁撈、宮の渡し、近世の海運など、尾張・知多地方に古代以来一貫して存在する、海に育まれた魅力的な歴史文化を知り、楽しみ、当地方の海に親しんでもらうきっかけとする。

■「行ってみたくなる海の歴史散歩」をコンセプトとして、多くの展示品や写真・解説によって知多半島と島々から名古屋周辺まで広がる海の歴史文化を旅行感覚で楽しめる内容とする。

■歴史・文化の古来の原像を追究する考古学と、主に近世以降の生活の中に文化的特色を見出す民俗学の学芸員が共同で企画することで、より幅広い面から当地方の海の歴史文化を学べる特別展にする。

【他の博物館・機関や地域社会との連携や取り組み内容】

■日間賀島観光協会 現在も海と深く関わる環境・生業・産業が根付く日間賀島をモデルに海の歴史文化を学ぶため、本特別展に向けた調査研究や展示資料の借用、付帯事業・広報の展開に関して協力・連携する。

■南知多町教育委員会 本特別展の核の一部となる海に関する文化財を多量に所蔵するため、資料の調査研究・借用・展示に関して協力・連携する。

【特に学校教育との連携について】

■名古屋市立小学校・名古屋市立小中学校校長会社会科部会・名古屋市社会科同好会 教育委員会および小中学校校長会の公認の学習事業として海の思い出に関するアンケート兼ワークシート学習を実施し、その成果を本特別展で還元する。学校教育の場で本特別展を利用して当地方の海に関して学習してもらう。

【事業全体のまとめ】

陸地での生活の常識とは異なる海からの視線や、普段の生活習慣・見慣れた何気ない風景などの目に見えない部分に潜在的にある、当地方の歴史文化と海との深い関わりが明らかになった。この成果を展示や普及活動に活用することで、身近な尾張・知多地方の海・海浜地域に現在も息づく海の歴史・文化的特色に興味・関心を抱き、それらの海の文化を保存・継承する大切さを学ぶことができる。今回のサポート事業では当地方の海の文化を幅広く全般的に調査したが、今後は個別のテーマごとに調査研究を深く掘り下げ、当地方の海の文化に関してより詳細かつ本質に迫る研究をおこなっていきたいと考えている。

主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 日間賀島観光協会	日間賀島における調査全般の調整・紹介、日間賀島資料館での展示連携、今後の展覧会に関する事業・広報協力など
2. 名古屋市立小学校・名古屋市立小中学校長会社会科部会・名古屋市社会科同好会	名古屋市内小学校での海の思い出調査協力、海の文化の学習に関する連携
3. 南知多町教育委員会	大口の資料調査および今後の資料借用に関する協力
4. 志摩市教育委員会	資料調査・借用、および遺跡の現地踏査の案内など

以上